

帰依（１）

帰依戒はたいへん特別の誓いです。どうしてかという、私たちが実際に三宝に帰依して、帰依戒の真実の意義をほんとうに理解するなら、この生だけでなく、すべての未来生においても保護を受けることができるからです。悟りを得るまでの期間については、私たちの未来生は、地獄・餓鬼・畜生の三悪趣に堕ちることがなくなって、人間や天人に転生することができます。そして、おのおのの生の間は、さまざまの困難に遭うこともなく、病気やあるいは精神的な苦痛に遭うこともありません。いつか最後に私たちは悟りを開く（証得仏果）ことになりますが、仏果を得たときには、私たちのはたらきは諸仏のはたらきと同じになるのです。ですから、帰依をするということは、すなわち一時的な保護と究極的な保護を得るということです。こうして、帰依は無上で信頼出来るものであり庇護の原因であるといえるわけです。

帰依するときには、一般に知られているように、外の三宝、すなわちブッダ（仏）とダルマ（法）とサンガ（僧）に帰依します。しかし私たちは同時に、自分はブッダを見ることができなくて、ただダルマとサンガを見ることだけだと知っています。ここでかならず理解しておかなければならないことがあります。それは、サンガの一人の僧の姿の中に実は三宝のすべてが含まれているということです。たとえ私たちが目の前にブッダのお姿（外相）を見ることができなくても、ブッダの心はサンガの中にあります。そしてブッダの心はすなわち心の導きの師です。それがサンガの心であるわけです。サンガの人々の外から見えるふるまいは、戒律が他人を傷害する因を取り除いていますから、サンガの姿はすなわちブッダの悟り（証悟）の姿なのです。また上師のお言葉はダルマです。一切の上師のお言葉はみなダルマなのですが、それはなぜかという、上師は四聖諦や慈悲や菩提心などを教え

られますが、それらがすなわちダルマだからです。上師のお心はすなわちブッダのお心です。ブッダのお心とは空性の了解のことです。これについては他で述べたことがあるのですが、この一点の中に他の全ての教えが含まれています。空性の中で自我は完全になくなってしまい、ただ一切の衆生に対する思いやりだけがあるのです。

私たちがブッダのことを想うときには、ブッダの心がもっとも重要です。ブッダの心は慈悲の心と智慧の心です。すべてのサンガの人々の心もまたすべてここにあります。一切のサンガはみなブッダの心をもっていますので、それゆえ、サンガの中のひとりの僧の中に、三世の諸仏が兼ね備わっているし、三世の三宝が円満成就しているのです。

(『尋求真正的帰依』, pp.10-11)